

授業づくり研修 ー道徳の授業・評価についてー

第2回の5年経験者研修は、初任者研修においてもご講義いただいた四天王寺大学の杉中康平先生をお招きし行いました。研修では、次の2つの内容を柱に演習を交えご講義いただきました。

- ① 道徳科の指導と評価 ～ 子どもたちの学びをどう見とるか ～
- ② 『考え、議論する』道徳科の推進 ～ 「主体的・対話的で深い学び」につなげる道徳の授業 ～

平成30（2018）年度から小学校、平成31（2019）年度から中学校において道徳科が全面実施される中、各校の状況も受講者の課題意識もそれぞれ。講義は評価の具体的な話も含め、対話を軸に多面的で多角的に学び、道徳的価値の自覚や、生き方について考えを深める授業について等、実践に結びつく内容で実り多き研修となりました。

～ ふり返りシートより～

道徳の評価について、何をどう準備し、評価すれば良いのかが分かりました。今後、道徳ノートやプリントなど、活用して振り返り、評価に活かしていきたいと思います。授業づくりでは、指導案の添削を通して、必要な発問について理解が深まりました。

1学期の自分の授業を振り返り、授業づくり、評価について考えるきっかけになりました。具体的なお話ばかりだったので、評価するにあたって自分だったらどのように書こう、授業ではどう発問しようとイメージしながら学ぶことができました。

初任研の時に学んだ道徳の授業づくりについて4年経ってまた学習できたことがとても有意義なことだと思いました。5年間、自分が授業を実践してみて、今自分の授業づくりに何が足りないのかがよくわかりました。2学期の授業に生かしたいと思います。

道徳の授業づくりについて、発問のつくり方について改めて学ぶことができました。実際に授業をしても発問が多すぎて、最初と最後でふりかえるような時間をゆっくりととることができませんでした。学年でも授業研究し、大きく三つの発問にしようとなったのですが、具体的にどのような発問がいいのか今日の研修で学ぶことができました。評価については、学校でも話し合われてきましたが、最後の提案の“先生ノート”も「なるほど！」となり、2学期から実践しようと思いました。学校に来ていただきたいくらい、学びになりました。

「子どもたちがより良く生きることを応援する」という言葉が印象に残りました。今日の5年目研修は、発問を考えるポイントや授業の展開の仕方など、これまで気づけていなかった視点を教えていただき、とても勉強になりました。5年目同士で、一つの指導案について考える際にも、今日教えていただいた視点が生きていたと思います。勤務校にも広げていきたいと思います。

道徳の授業や評価の具体的な方法を学ぶことができました。4年前の講義を受けたときより、なるほどと思うことが多くあり、自分自身も成長できたのではないかと思います。勤務校では、小中で研修を行ったりすることで、地域の子どもを育てるということをしているが、何のためにしていたのかが改めて分かりました。今回の学びを校内での道徳の授業に活かしていこうと思います。

道徳科において何を「学び」としたらいいのか、何をどのように評価したらいいのか、とても明確にポイントを押さえて教えていただきました。昨日校内研において道徳についての講義を聞いたばかりでしたので、また学校にもちかえり、合わせて振り返りたいと思います。

研修後、初任者のときには自校への還元を視野に入れることはなかったと思います。キャリアの積み上げがあるからこそ視野、観点。“1年目に聞いた時よりはるかにたくさんの気づきがありました。どの子もより良く生きたいという想いを持っていることを忘れず、そのタネを成長させていけるような、気づきのある道徳の授業をしたいと強く思いました。”——これはある先生の振り返りシートの一文です。たくさんの受講生が、この5年を振り返り、自身の成長を実感されていました。